



2 月 号

平成 30 年 2 月 26 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たぐいましい荘川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

挑戦し続けるたくましさ

校長 水口 悟

草木萌え動く（そうもく もえ うごく 雨水・末候）

しだいにやわらぐ陽光の下、草木が芽吹き出すころ。冬の間に蓄えていた生命の息吹が外へ現れはじめる季節。（新暦では、およそ三月一日～三月四日ごろ 日本の七十二候を楽しむより）

平昌オリンピック、数々の感動のドラマ。羽生結弦選手が怪我を克服し2大会連続して金メダルを獲得した瞬間のTVを皆さんも見たことと思います。・・・「凄い精神力」「信じ続ける力」「準備する力」・・・

学校の教育活動においても、子どもたちと先生方による、また、保護者や地域の方々による感動のドラマがいくつもあります。その過程や瞬間をともにできる教師の仕事は、やはり教師冥利に尽きます。

ひとり歩きのできる子は、めあてを持ち続ける子

6日は、朝から細かい雪が降りしきる日でした。5回のスキー教室で、少人数のグループ学習を通し、確実に上手くなりました。私もいくつかのグループを受け持たせて頂きましたが、雪が降っていても風が吹いていても、しっかりと話を聞き、いかにスピードをコントロールできるかイメージを描き、繰り返し繰り返し滑っていく姿が頼もしかったです。荘川の自然を楽しんでいるようであり、滑りを磨くために雪面と戦っているようでもありました。

晴哉さんの見事な前走に続き、1年生から6年生までの全員が、自分のめあてに向かって滑って行きます。スタートの位置にてば、頼れるのは自分しかいません。強い心を持ち続けなければ、降りしきる雪や緊張に押し潰されてしまいます。ゴーグルの中の目を見開けば、今から滑るコースが見えて来るはず。心を決め滑って行く姿を見ながら「強いな。強くなったな。」と思いました。2本滑走して、よい方の記録で順位が決まります。全員が上手く2本をまとめて滑り、記録を残しました。荘川高原スキー場関係者のみなさん、5回のスキー教室に講師として参加して頂いたみなさん、また、大会当日に駆けつけて頂いた家族のみなさん、本当にありがとうございました。荘川小学校のスキー教室・大会は、真に学校と地域による協働の教育活動そのものです。『仲間と競う楽しさ、自分の目標を持って取り組む楽しさ、素敵な大会を見させていただきました。何より、子どもたちの一生懸命な姿や笑顔に感動しました。日本中の子どもたちにこんな場面があったらなと思ってしまいました。』（観客）



ひとり歩きのできる子は、仲間を感じられる子

2月に入ると、10日のヴォーカルアンサンブルコンテストに向けた4・5・6年生の子どもたちの練習は、最終段階を迎えます。一層美しい歌声が、校舎の中に響く時期になります。思わず、その表情を見たくなり幾度も、校長室を飛び出します。6年生児童は、この2日前に冬の荘川桜を見に行き、桜に対する思いを高め本番に挑みました。「桜の下で」という曲は、一年を通して歌い続けてきた曲で、新島研修でも市役所でも歌ってきた曲です。当日、荘川小学校の順番が回ってくると、聞いているこちらでもドキドキ感が高まります。歌う場面が変われば、緊張感も違うのですが、いつもの学校で聴いている歌声は、やはりすばらしい！緊張感の中でも、仲間の歌声をというよりも、風邪で出場できなかった仲間も含め、いつもの仲間の一人一人をまるごと感じとって歌っているようでした。コンテストだから、賞はいろいろあります。いつの日も挑戦し続けてきたみんなの姿こそ、誇らしい気持ちで一杯です。

「今回は、自分に勝てたと思います」「まだまだ金メダルを取れる器ではないと、4年後に向けた目標ができました」自分を信じ、仲間を信じ、挑戦し続ける姿は、やはり美しく感動します。そして、元気が出ます。